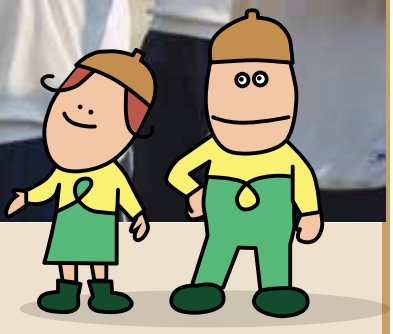
朝鮮高校にも差別なく無償化適用を求めるネットワーク愛知　会報

도토리통신 우리

ととり通信　第11号



〈　目　　次　〉

朝鮮高校生就学支援金違憲国家賠償請求裁判
意見陳述
原告番号６番（第二次訴訟）…… 2
原告番号８番 …… 4

●リレーエッセイ
［全国の無償化裁判の現場から］
無償化裁判と私 …… 6

●今さら聞けない Q&A〈第２回〉
「国賠訴訟」ってなに？ …… 7

●他地域での無償化裁判の状況
福岡地区 …… 8

●もっと知りたい朝鮮学校이모저모
突撃インタビュー〈第２回〉 韓純愛 オモニ
…… 9

ネットワーク愛知
第一回総会が行われました …… 10

応援グッズ第二弾を作成しました …… 12

朝鮮高校生就学支援金違憲国家賠償請求裁判

第７回口頭弁論 意見陳述：原告番号６番（第二次訴訟）

2014年4月15日

1

僕は幼稚園の頃から朝鮮学校へと通い始めました。日本の学校が家のすぐ近くにあるのにもかかわらず、決して安くはない定期券を毎月購入し、家から片道1時間もの道のりをバスや電車を乗り継ぎ名古屋駅裏にある朝鮮学校へ通うことに何の疑問も抱きませんでしたし、自分は朝鮮人だから当たり前だと思っていました。

2

朝鮮学校での日々は毎日が新鮮でした。小学校の頃から授業で朝鮮語を習い始め、その時から生活に朝鮮語というものが取り入れられていきました。家では日本語を使って生活していたので、友達や先生と朝鮮語を使って話すのは、朝鮮学校だけでした。朝鮮語をしゃべることで、自分自身が朝鮮人だということを強く実感することができたし、朝鮮学校は僕にとって宝物のようなものでした。

僕は、朝鮮学校で、素敵な仲間、素晴らしい先生たちに出会いました。朝鮮学校がなければ、同じ民族の同年代の子たちと会うことも無かったでしょう。日本の学校に通っていたら、朝鮮語をしゃべることもなく、朝鮮人としての自分の存在意義も感じられなかったと思います。

3

僕はクラスメイトに勉強を教えるのが好きで、朝鮮学校の先生になりたいな、と漠然と思ったことがありました。ですが、学生数が減少し、各種学校の認可しか得ていない朝鮮学校は経営が苦しく、自然と日本学校よりも学費が高くならざるをえませんでした。そして人件費を出す余裕がないので、先生たちの給料はほとんどゼロに近いと聞いたことがあります。

そのようなことを耳にした僕は、中学３年生の時、生活指導の先生にこう質問したことがあります。「大学を出たのにもかかわらず、なぜわざわざ自分の生活が苦しくなるような教師という職を選んだのか。」と。先生はこうおっしゃいました。「先生も君たちと同じように朝鮮学校に通い、朝鮮語を学んだ。その中で同胞社会や朝鮮学校のありがたみを感じることができたし、君たちも先生と同じように朝鮮語を学ばせてあげたい。だから朝鮮学校の教師になろうと思ったんだよ。」と。

先生の話を聞き、朝鮮学校に通えるのも当たり前のことではないし、次は自分たちが学校を守っていく番だと思い、教鞭をとり先生のような立派な指導がしたいと思いました。社会の授業で、大学や大学院に進学できるのも、ＪＲや地下鉄の通学定期が使えるのも、先輩達が勝ち取ってきたものだと習ってきたので、僕たちのこの学校生活は、決して当たり前のものではないんだという思いがありました。

4

朝鮮学校では、朝鮮語のほかに朝鮮の歴史を学びます。その授業で戦争のことや植民地のことを学び、なぜ朝鮮人である僕たちが、他国である日本に３世、４世と滞在し続けているのか、その理由を知ることになりました。僕の曾祖父、曾祖母たちは植民地時代に生活のため、日本に渡ってきたと聞きました。日本に渡ってきて、言葉も通じないなか勉強をしたり生活したりすることはひどく困難なことだったと思います。朝鮮人差別も少なからずあったと思います。でも、そんななかで自分たちの社会を築き、継承してきてくれたおかげで、今の僕たちが存在していると思います。

5

中学、高校と歳を重ねるごとに、同胞社会とのつながりを深く実感していきました。同胞社会には総連の支部というものがあり、それは居住地域ごとに分かれています。自分の所属支部は、同年代の人は少ないほうでしたが、朝鮮学校を卒業した先輩たちがたくさんいました。

夏はサマースクールといって、朝鮮学校に通っていない在日の子供たちに朝鮮語の授業をしたり、それ以外に海や川に行ったりもしました。僕が高校を卒業する時には、支部の先輩方が祝賀パーティーを開いてくれたりもしました。

支部で先輩方と接してみて、同胞社会では上が下を守り、下がそれをまた継承していくものだと感じました。自分たちが今こうして朝鮮語を学べるのは、同胞社会を築いてきた1世、２世のおかげだし、それと同時に自分たちがこれから守っていかなければならないと思いました。

なにより、僕に宝物のような日々を与えてくれた朝鮮学校を守らなければいけないと強く思いました。

6

僕は小・中・高と９年間サッカーをしてきました。人よりも下手だったので、人一倍練習するために、朝は6時に家を出て練習をし、夜は集団練習が終わった後も居残っ

て練習をし、帰りが 10 時、11 時と夜遅くになることもありました。

僕のオモニは家計を支えるために、9時から5時までの仕事をしながら、夜も8時頃から夜中までアルバイトをしていました。それなのに、つらそうな顔一つ見せず、その期間、朝は僕と一緒に早起きをして朝ごはんを作ってくれて、どれだけ夜遅くになろうとも、できたてのご飯を出してくれたことには、感謝してもしきれません。

高校３年間は特に練習がきつく、何度も辞めたくなったことがありました。高校２年生の時には、大きなけがをしてしまい、高校サッカーができないかもしれないと言われてしまいました。でも、けがをしている自分をチームの一員として支えてくれた仲間たち、自分のために新しいユニフォームを作ってくれた監督、周りの支えがあり、高校３年間最後までサッカーをやりぬけたと思います。部活を通じて学んだこと、流した涙、つないだ絆は僕の一生の糧となることでしょう。

このように、僕たち朝鮮学校の生徒たちは、日本学校の学生となんら変わりなく、勉学や部活動に励んでいます。学業での違いといえば、朝鮮語と朝鮮の歴史を取り入れているくらいだと思います。それだけなのに、北朝鮮のスパイ、洗脳教育などと朝鮮学校を否定し、学ぶ権利を侵害する行為はひどく心が痛く、悲しい現実だと思います。

7

次に、高校無償化の話に移りたいと思います。

高校無償化法案が発表されたのは、僕が高校２年生の時でした。朝鮮学校は学校として認可されておらず、国家から助成金を貰えていないので、日本学校と比べてみても高い学費を払って通っていました。なので、この話を聞いた当初は、父母の負担が少なくなると思い、みんな喜んでいました。

僕のオモニは高校時代に吹奏楽部に所属していて、フルートを吹いていました。今でも週に1度ほど教室に通って習っています。ですが、家計を支えるために働きづくしで、家で練習する暇がほとんどありませんでした。なので、支援金をもらえていたら、オモニの負担も少しは減ることになり、オモニの好きなフルートに専念することができると思っていました。

そのあとすぐに朝鮮学校だけを無償化の対象から除外するということを知りました。その時の心情を思い返すと、ショックというよりも何が起こっているかわかりませんでした。そのあと報道などを通じて、国交がないから、教育内容がわからないなど、とってつけたような不当な理由で除外されていることを知りました。

自由に学ぶ権利は人として当然に与えられるものであるし、学校を訪ねてきて僕たちの授業を見てから判断を下すべきだと思いました。僕はこれまで日本社会で朝鮮人として生きてきて、差別されたと思ったことはあまりありませんでした。先代のおかげで日本のサッカーの大会にも日本学校と変わりなく出場できたし、朝鮮が核実験を行った時も、一時は大きく報道で取り上げられても、そのうちほとぼりが冷めていくと感じていました。しかし、高校無償化からの除外は、朝鮮が核実験などで批判されて、それが僕たちにも飛び火するという今までの経験と違い、まっすぐ僕たちが、在日朝鮮人が、ねらい打ちにされたと感じました。僕にとって、直接的な在日朝鮮人差別というものを身に染みて感じたのが初めてでしたし、日本社会に差別意識がいまだに残っているということに、ひどくショックを受けました。

8

僕たちは、無償化排除が発表された時から、朝鮮学校の除外反対を呼び掛ける運動を始めました。雨の日も、凍えるような冬の日も、僕たちは街頭に立ちビラ配りや署名運動をしました。寒い日はけがが痛んで大変な思いをしました。部活動の時間を削って宣伝をすることもありました。

街頭宣伝ではいろいろな体験をしました。配ったビラをそのままくしゃくしゃにして返す人、僕たちが朝鮮人だから署名しないという人。そういう人に出くわすたびに何度も心が折れそうになりました。でも、心のない人ばかりではなく、僕たちの呼び掛けに足を止めて詳しく、熱心に聞いてくれる人もたくさんいました。

9

僕たちはこれからも日本で家庭を築き、生まれてきた子供たちも朝鮮学校に通うことになるでしょう。そのうえで必要なのが、日本人の方との理解、共存だと思います。

僕が朝鮮高校に通っていた時、朝鮮が核実験をしたり、人工衛星を打ち上げたりすると、学校の近隣住民の方は僕達が心ない人からの被害に遭ったりしないか、とても心配し、登下校を見守ってくれたりもしました。僕が高校２年生のころ、中学校の後輩が日本の高校生に暴行を受ける事件があり、それが新聞に載ったのを見たと言って、心配して声を掛けてくれた方もいました。朝鮮大学で毎週金曜日に文科省の前で抗議闘争をしているんですが、そこでも日本人の方が率先して参加してくれています。

この権利闘争は僕たち朝鮮人の力だけで勝ち得ても、

情勢や風当たりはこれまでと何も変わらないと思います。このような日本人のよき理解者や弁護士の方々と共に戦い、権利を獲得することに大きな意義があると僕は思います。

10

僕は高校を卒業して、直接的に権利闘争に関わることが少なかったので、後輩たちとまた一緒の舞台で戦えると思い、二次原告となることを決めました。

僕のこの声を届け、母校や育ててくれた人々に恩返しができればいいと思います。

11

今日もかわいい後輩たちは街頭にたち、権利の獲得を呼び掛け、思い届かず悲しみの涙を流し、高校を卒業していきます。

僕たちはどれだけ叫べばいいのでしょうか。悲しみに満ちた涙をあと何回流せばいいのでしょうか。

日本社会で在日朝鮮人としてまっとうに生きていく行為は、それほど糾弾されるべき行為でしょうか。

僕は不当な理由で朝鮮学校を無償化の対象から外し、学ぶ権利を侵害することは、人としてあるまじき行為だと思います。

政権が交代し、政策が変えられ、このままこの問題をうやむやにしようという政府の動きを僕たちは絶対に許しません。

もし、あなたたちの子どもが同じ境遇だったならば、裁判官の方々はどう思いますか。差別されているのが、自分の家族だったらどう思いますか。高校生が自分たちにはどうしようもできない理由で学ぶ権利を奪われ、必死の呼びかけも届かない悔しさの中で生活しているのです。

裁判官の方々には、良心にしたがい、公正な判断をお願いします。

朝鮮高校生就学支援金違憲国家賠償請求裁判 ――

第８回口頭弁論 意見陳述：原告番号８番

2014年6月17日

1

私は、幼稚園から高校まで、朝鮮学校に通いました。両親は、日本社会の中でも、私が、朝鮮人としての誇りを持って生きていって欲しいと願い、片道２時間もかかる朝鮮学校に私を通わせてくれたのだと思います。

私自身、小中学校の頃は友達と離れるのが嫌だという程度の気持ちしかなく、特別意識して朝鮮学校に通っていた訳ではありませんでした。しかし、私が、朝鮮人だということを隠さず、在日同胞社会を大切に思う気持ちを持って生きていられるのも、朝鮮学校に通い、朝鮮の言葉や歴史を学んできたからだと、今は思います。

日本の学校に通っている朝鮮人の友達の中には、朝鮮人だということを隠すために、通名で通学をしている子もいました。また、日本の学校に通う中で、自然と在日同胞社会から離れていってしまう子もいました。「日本で生まれたのだから、日本学校に通い、日本社会の中で生きて行けば良いじゃない。」と思う方もいらっしゃるかもしれません。しかし、自分が朝鮮人だということを隠して生きていくことは、自分自身を隠して生きていくということにつながると思いますので、私は、やはり、朝鮮人としての誇りを持って、在日同胞社会を大切に思う気持ちを持って生きていきたいと思いますし、そのような気持ちを持てるようにしてくれた朝鮮学校は、私にとってなくてはならない場所だと思っています。

2

私にとってはなくてはならない朝鮮学校が高校無償化から排除されたとき、悲しみや怒りもありましたが、一番強かったのは、悔しいという気持ちでした。朝鮮学校やそこに通う学生のことを詳しく知らないのに、「北朝鮮」に関する報道を見ただけで、朝鮮学校は「朝鮮」と関係があるから危険な場所だと決め付けられることがとても悔しくてなりませんでした。

「百聞は一見に如かず」と言いますが、偏見だけで決めず、一回、自分の目で見て判断して欲しいと思っています。何よりも、まず、朝鮮学校の授業を見て欲しいです。朝鮮学校の教育は学生を洗脳しているなどとよく言われますが、朝鮮学校での生活は、日本の学校と変わりありません。教室の雰囲気も厳しいイメージがあるようですが、楽しいときや、誰かがギャグを言ったときは皆で笑いますし、朝鮮学校の教室はとても暖かい雰囲気です。「北朝鮮」の報道で日本国民の皆さんが抱く印象と、実際に見た朝鮮学校の印象は全然違うと思います。

3

朝鮮学校が高校無償化から排除されたことを受けて、私は、文部科学省宛に手紙を書いたり、放課後に、金山駅や名古屋駅で、ビラ配りや署名運動を行ってきました。

ビラ配りのとき、こころよく受け取って、「お疲れ様！」、「頑張って！」、「愛知朝鮮中高級学校だよね？文化祭とか

とても楽しく参加させてもらってるよ。今年も行くから楽しみにしてるね！」など、励ましの言葉や、嬉しい言葉をかけて下さる方もたくさんいらっしゃいました。

しかし、「朝鮮」と聞いただけで、無視したり睨みつけたりしてくる人達も少なくありませんでした。朝鮮学校の存在すら知らない人達もいました。そういう人達を見て落ち込んでいるとき、私は、くしゃくしゃに丸められて落ちているビラを目にしました。それを見た瞬間、何も言葉を発することができませんでしたし、ショックで震えました。その人は軽い気持ちでやったことなのかもしれませんが、私はその光景がずっと忘れられません。

いじめの問題が話題になったりしていますが、高校無償化からの朝鮮学校除外も「いじめ」だと思います。私が考えるいじめとは、弱い者を肉体的、精神的に苦しめることです。日本政府やマスコミが、在日朝鮮人のことを「悪」と日本の国民の皆さんに思い込ませ、延坪島事件や拉致問題などの政治上の理由から、他の外国人学校には適用した高校無償化を朝鮮学校にだけ適用せず、そのことに対する異論を許さないような風潮を作り上げていることは、「いじめ」でしかないと思います。ネット上では、朝鮮学校のことについてたくさんの悪口が書かれていて、見る度に心が痛みます。

4

私は、もっとたくさんの人に朝鮮学校について知って欲しいですし、朝鮮学校の良さを伝えたいです。

朝鮮学校の良いところは、生徒を人間的に大きく成長させてくれるところです。挨拶などの礼儀は授業では習いませんが、先生同士の会話や授業参観などでの先生の姿、先輩の姿を見て真似する中で、自然と身に付きました。そして、朝鮮学校の生徒は、誰に対しても、とてもフレンドリーです。

また、朝鮮学校では、2人か3人が一組になって、互いに勉強を教え合います。試験が近くなると、お互いに問題を出し合ったり、1人では解決できない子のために学校に残って勉強を教えてあげたりします。朝鮮語の話せない転校生が来たときは、その子のために、どうやったら楽しく朝鮮語を学べるか委員会で議論をして、その子が少しでも早く朝鮮語を話すことができるようにしようと、同学年のみんなで、自主的にその転校生の子に朝鮮語を教えたりもしました。部活で良い成績を出したときは皆で喜び、誕生日は皆で祝い、悩み事は皆で悩み、落ち込んでいる子がいたら皆で励ます。このように、朝鮮学校の学生は、「One for all , all for one」の心がとても強いです。このような「人を思う気持ち」は、高校無償化から除外されて苦境に立たされている朝鮮学校に通ったからこそ、より大きくなったのだと思います。

私の夢は朝鮮学校の先生になることです。私のオモニ（母）も、朝鮮学校の先生をやっています。普通は、親の姿を見て憧れを持つのかもしれませんが、私はオモニ（母）の大変そうな姿を見て、絶対に朝鮮学校の先生にはなりたくないと思っていました。しかし、高2の時の進路講習や高3での祖国訪問などを通して、考えが変わりました。自分のためだけではなく、当たり前のこととして、他者のためにも働き、生きる、そういうスケールの大きい人々の生き方を祖国訪問で目の当たりにして、私も、自分のことだけを考えて生きるのではなくて、在日同胞社会のために、在日に生まれた自分にしかできないことをしたいと思うようになりました。それに、子供が好きですし、今まで習ってきた朝鮮学校の先生を見て、私もこんな立派な先生達みたいになりたいと憧れを持つようにもなりました。何だかんだ、親の姿を見て、自分も親のようになりたい、親のようになるべきだと思っていたのかもしれません。

今は、朝鮮学校の教員になって、もっと多くの人達に朝鮮学校を知ってもらいたいと思っています。また、今、朝鮮学校は、学生が減っています。無償化から除外されなかったら、本当は通いたいのに経済的理由で朝鮮学校に通えない人も通えるようになって、学生の人数が増えたはずです。無償化の除外は、ただでさえ大変な状況にある朝鮮学校をさらに痛めつけるものですし、それは学生や本当は朝鮮学校に通いたいのに通えない在日の若者を痛めつけることでもあります。私は、朝鮮学校の先生となって、苦境に立たされている朝鮮学校を守らなければと思っています。

勉強はもちろんのこと、在日朝鮮人としてのアイデンティティーを熱く教えてくれた朝鮮学校の先生達、互いに刺激をもらい固い絆で結ばれた大切な仲間、朝鮮学校に通ったからこそ、これらのかけがえのない人達に出会うことができました。「高校を卒業したら現実的に同級生全員揃うのは難しい。でも、同じ方向を向いて人生を歩んで行けば、いつかはきっとまた全員揃う。」この朝鮮学校の先生の言葉は忘れられません。私は、朝鮮学校に通わせてくれた両親に感謝しています。私は、こんなにも暖かい朝鮮学校を、これからも守っていきたいと思います。

リレーエッセイ

［全国の無償化裁判の現場から］ 無償化裁判と私

ネットワーク愛知の事務局メンバー　共同代表　原科　浩

みなさま、こんにちは。ネットワーク愛知の事務局メンバー、5月の総会で共同代表に任じられました原科浩といいます。大同大学という私立大学で物理学の教員をしています。

こんな生粋の理系人間と、在日朝鮮人との出会いは、高校生時代にさかのぼります。本名を名乗って通っている韓国人と同じクラスになりました。しかしそのときの私は、日本に在日朝鮮人が暮らしているという認識すらなく、珍しい名字だな、程度の意識でした。こうして高校在学中は、国籍のことなど思いもせず、普通のクラスメイトとして過ごしていました。1980年に卒業して大学に通いはじめ、この同級生の彼女とは、通学途中の駅で会って話をするようになりました。理系クラスで、私は物理学志望で理学部に進学しましたが、彼女は英文科に進学していました。なぜと理由を聞くと、「私は韓国人だから、薬剤師になりたくても日本国籍がないとなれないし。いろいろ調べているうちに気も滅入ってきて。先生と相談して、英語を勉強してそれを生かす仕事をすることにした。」という答えでした。頭を殴られたようなショックでした。自分がつまらない受験勉強なんかやらなきゃいけないのか程度で愚痴っていたのに、こんな重たい壁にぶつかって悩んでいたのか。彼女から話を聞き、知らないことが多すぎて、とてもすぐには問題を受け止められなかったのです。

ですから、すぐに何かの行動を起こしたということではありません。運動にかかわるきっかけは、外国人登録の切り替え時に義務付けられていた指紋押捺を拒否する人たちがいて、名古屋でも裁判も起こっていることを新聞で知ったことです。外国人登録法は指紋押捺だけでなく、外登証の常時携帯義務や刑事罰則もあり、日本人の住民登録制度とは全く違うことを知りました。先の彼女に聞いてみると「そうそう、車を運転していて警察に止められたとき、外登証を家に忘れてきてあぶなかった。おまわりさん見逃してくれたけどね。」在日外国人は、日本社会、日本国家からこういう扱いを受けているのだと知り、怒りがこみあげてきました。そして、こういう差別制度を許しているのは日本人であり、今何もしなければ、私も差別する側の人間であることを認めてしまうことになる。それはとても耐えがたいことでした。

その後、韓基徳さんの指紋押捺拒否裁判支援の事務局に加えていただきました。田中宏先生をはじめとする事務局、他の指紋押捺拒否者、支援の皆さんとの出会いから、さらに多くのことを学ばせていただきました。

紆余曲折あり、1997年から名古屋大学に教員として勤めるようになりました。すでに外国人学校生の国立大学入学資格が問題になっていましたが、不覚にも気が付かないでいました。1998年には当時名古屋大学生の洪順姫さんが国連人権小委員会で発言をされています。自分の足元の差別に気が付かなかったことを恥じつつ、名古屋大学内でこれを自らの問題として受け止める運動が必要であると考えて準備を始めました。1999年から、大学教員・学生有志、留学同の協力を得て、「外国人学校卒業者の名古屋大学への入学資格を求める会」を結成して活動を始めました。毎年愛知朝鮮高級学校生徒からの入学資格認定申請が出され、学内で署名・要望書を提出するなど支援・要求を粘り強く続けました。

各地の運動が文科省を動かして、2003年に外国人学校からの大学入学資格が認められることになりました。朝鮮学校卒業生だけが、学校の認定でなく個別審査という差別的な扱いとして残ってしまったことには悔いが残ります。朝鮮学校だけを「高校無償化」制度から除外することの、遠因となったのではないか。

「高校無償化」問題をはじめ、在日朝鮮人への差別は、差別する日本人の問題です。私が高校生だったころから30年以上たった今も、朝鮮高校生徒、卒業生たちが、声を上げ、原告とならなければならない状況に心が痛みます。私は何をやってきたのか。こんな差別は絶対に許せないという思いは、みなさんにも負けないくらいあるつもりです。一緒にたたかいぬきましょう。どうぞよろしくお願いします。

今さら聞けない
裁判基礎知識

Q&A

第2回
「国賠訴訟」ってなに？

Q 「国賠訴訟」ってなに？

A：国賠訴訟というのは、国家賠償請求訴訟の略語だよ。国賠訴訟は、公務員の公権力の行使に伴い、損害が発生した場合に、国や公共団体に対し損害賠償の請求を求めるための裁判だよ。簡単に言えば、公務員の行為によって損害を受けた人が、その賠償（金銭）を求めて提起する裁判ということだよ。
国賠訴訟については、憲法17条（「何人も公務員の不法行為により損害を受けたときは、法律の定めるところにより、国又は公共団体にその賠償を求めることができる。」と規定）を受けて制定された国家賠償法に詳しく定められているよ。

Q 「行政訴訟」ってなに？

A：行政訴訟というのは、行政事件に関する訴訟の総称だよ。公権力の行使の適法性などを争って、その取消しや変更などを求める訴訟等があるよ。
高校無償化について、大阪や広島で提起されている就学支援金支給対象校の不指定処分の取消しを求める訴訟（処分の取消訴訟）や就学支援金支給対象校指定処分の義務付けを求める訴訟（義務付け訴訟）は、行政訴訟に含まれる訴訟だよ。
処分の取消訴訟や義務付け訴訟については、行政事件訴訟法という法律に詳しく定められているよ。

Q 「国賠訴訟」と「行政訴訟」って、どう違うの？

A：行政訴訟では、「処分を取り消すよう国に命じてくれ!」（処分の取消訴訟）とか、「処分をするよう国に命じてくれ!」（義務付け訴訟）などということを裁判所に訴えて、直接国の違法な処分をなくしたり、処分するようにさせる効果があるよ。それに対して国賠訴訟では、結論としては「損害賠償を支払え!」ということを求めているので、損害賠償を認めてもらうための前提として、国の違法行為が違法か否か判断されるだけで、国の違法な処分を直接取り消したり、国に一定の処分を命じたりするわけではないんだ。もちろん、国賠訴訟の中で国の行為が違法だと認められたような場合には、国が裁判所の判断に従い、違法な行為を是正するということはあり得るけどね。
それ以外には、国賠訴訟と行政訴訟では訴訟を訴える主体が異なるよ。国賠訴訟では、国の違法行為によって直接損害を被った被害者（無償化裁判の場合には、就学支援金の支給をうけられなかった朝鮮高校の生徒や卒業生）が原告になるのに対し、行政訴訟では就学支援金支給対象校の不指定処分を受けた各地の朝鮮高校自体が原告になるよ。
また、行政訴訟については、裁判所の中でも行政訴訟を専門に扱う裁判体（裁判所の行政訴訟の専門の部署）が訴訟を担当することになるのに対し、国賠訴訟は一般の民事訴訟を担当する裁判体が訴訟を担当することになるという点も、国賠訴訟と行政訴訟の違いだよ。

Q 「国賠訴訟」が裁判員裁判になることはあるの？

A：裁判員裁判というのは、特定の重大犯罪に関する刑事裁判について、有権者の中から事件ごとに選ばれた裁判員が、裁判官とともに審理に参加する裁判のことだよ。
裁判員裁判は刑事事件だけに適用される制度なので、損害賠償を請求したりする民事事件に含まれる国賠訴訟が裁判員裁判になる可能性はないよ。

Q 「国賠訴訟」と「行政訴訟」は両方同時に提訴できるの？

A：国賠訴訟と行政訴訟は、両方とも同時に提起することは可能だよ。
実際に広島では、国賠訴訟と行政訴訟の両方を同時に提訴しているよ。

Q 愛知では、「行政訴訟」ではなく「国賠訴訟」を提起したのはなぜ？

A：行政訴訟は一般的に、短期間で訴訟が終わることが多いんだ。また、行政訴訟は司法機関である裁判所が行政機関の行為を取り消したり、行政機関に一定の処分を命じたりすることを気にして、行政機関の処分が裁量（判断の幅）の範囲内にある適法なものであるとして、行政機関に対する請求を認めない判決が出されてしまうことも多いんだ。
愛知では、朝鮮学校が形成されてきた歴史的経緯や在日朝鮮人の人達にとって朝鮮学校がどのような意義のある場所なのかということなどを裁判所に理解してもらえなければ、現在の風潮の中では、朝鮮高校を無償化から除外した国の処分が違法であるとの結論を出してもらえないと考えているんだ。だから愛知では、朝鮮学校の意義などについて、じっくりと時間をかけて裁判所に理解を深めてもらうために、行政訴訟ではなく国賠訴訟を提起するという選択をしたんだよ。
また、国賠訴訟では就学支援金の支給を受けられなかった朝鮮高校の学生（卒業生）１人１人が原告になることから、被害者本人の気持ちを直接裁判所に伝える機会がより多くなるんだ。裁判所も、被害者自身が強い気持ちを訴えれば、被害者のことをより深く考えながら、国の行為の違法性について判断してくれるだろうから、この点も今回の高校無償化裁判において、行政訴訟よりも国賠訴訟が適していると判断した理由だよ。

他地域での無償化裁判の状況

朝鮮学校無償化実現　福岡連絡協議会　事務局長　瑞木　実

▼ 福岡地区 ▼

第１回口頭弁論（2014 年３月 20 日）では、服部弘昭弁護団長が、原告代理人として意見陳述をしました。その内容は、被告（国）の政策の矛盾を追及しました。

①「不当な支配」という曖昧かつ抽象的な要件を持ち出し、政治目的で朝鮮学校を制度から除外している。

②「授業料が他に流用するおそれがある」との政府の説明は、自らがつくった就学支援金制度を否定する矛盾に陥っている。

③ 九州朝鮮高校は、監督官庁である福岡県から授業料の使途について不明な点があると指摘を受けたことはない。財政状況は透明化されている。

④ 60 人もの弁護士が代理人となっている理由は、一人の日本人として、今回の国のやり方があまりにもひどく、醜いものであると知り、それを正すことが、外国人と日本人が共生できる健全な日本社会につながるという思いからである。

これに対して被告（国）は、第２回口頭弁論（2014 年６月５日）で第１準備書面陳述をしました。その要旨は、①学校が支給対象校の要件を満たすかどうかのみで区別したもの。②設置者による流用のおそれが否定できないので支援金を支給することができない。③不指定処分は、北朝鮮や朝鮮総連の影響が否定できないため。④「不当な支配」がされている学校は、学校運営を適正に行うことができない状況にあるから、本件規定 13 条に適合しない。

被告の反論は、根拠のない曖昧でかつ抽象的な主張を繰り返すだけで、原告に対して不誠実な対応に終始しています。

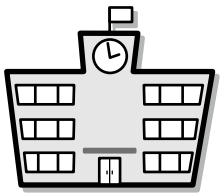
「朝鮮学校無償化実現・福岡連絡協議会」は、2013 年９月 28 日の結成以来、無償化適用除外の問題点及び裁判闘争の支援をより多くの日本人に訴えてきました。

今回の国の行為は、①朝鮮学校で朝鮮民族として教育を受けたいという原告の「信条」を否定する差別である。②朝鮮学校に在学するという「社会的身分」を理由とした差別である。と捉えています。

「ミレ通信」（会報）を通じて、県内はもとより九州一円の良識ある日本人へこうした国の不当な行為を訴えています。また、60 人の弁護士や朝鮮学校と連携して裁判傍聴の呼びかけや財政確保のグッズ販売などにも取り組んでいます。その結果、支援の輪は確実に広がってきていると実感しています。

もっと知りたい！

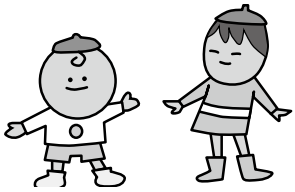
朝鮮学校 이모저모



突撃インタビュー〈第２回〉 韓純愛 オモニ

愛知朝高の高３、高２の学生のオモニである韓純愛オモニに無償化裁判のこと、そしてウリハッキョへの思いやその魅力などなど、インタビューしました！

〈インタビュー：USM〉



何故子供たちをウリハッキョに通わせようと思いましたか？

子供たちに、「朝鮮人」としてのハートを教えてくれるのはここしかないと思ったからです。極端な話、言葉とかは、留学をすれば身につけることもできますが、自分が何者であり、どのような生き方ができるのかという、ハートを育ててくれる学校はウリハッキョしかないと思います。

ウリハッキョで子供たちにはどのように育って欲しいですか？

ウリハッキョの特に良いところを学んで育って欲しいです。ウリハッキョには勉強がとてもできる子もいれば苦手な子もいますが、そういう日本の高校では一緒のクラスになりえないような色んなタイプの子たちが、「朝鮮人」だということで繋がってる温かさを大切にしながら育ってほしいです。また、日本の社会では、どうしても“自分が何者か”ということが揺らいでしまうので、その問いに対する確固たる答えと、ぶれない軸を持てるよう育って欲しいです。その過程の中で、ウリハッキョから教えられるがままに受動的に考え行動するのではなく、いい意味でウリハッキョを相対化しながら色んなことを学び、自発的に考え行動できるような子に育って欲しいです。

将来、子供たちにはどのように生きていって欲しいですか？

やはり何よりも、この同胞社会が無ければ今みたいに暮らせなかったし、これまでの同胞の努力の積み重ねがあって今がある、ということを忘れずに生きていってほしいと思います。勿論、同胞社会にも良い部分や悪い部分も含め、様々な側面があるとおもいますが、まず、同胞社会がなければ今の自分たちがいない、という事実が出発点になければならないと思います。どのような職についても、自分のできる範囲で、自分なりの形で同胞社会に寄与することはできると思いますし、どのように生きても、“どうやって自分たちが今生きていられるか”ということを心の片隅にとめておいてほしいです。

学父母として、「無償化問題」や今の裁判の展開をどう思いますか？

とてつもなく厳しい社会情勢になったものだと改めて実感します。「北朝鮮と関わりがある学校なんてけしからん」という言う人もいますが、朝鮮人が国と関わりをもつことの何がいけないのかわからないし、朝鮮民主主義人民共和国との関わりのなかでウリハッキョが成り立ってきたという現実をまず踏まえるべきだと思います。今後も、ウリハッキョが祖国とどのように関わっていくかは、わたしたちが考え決めることだと思いますし、それを問題化されること自体がおかしなことだと思います。また、このような状況を打開していくためにも、子供たちも含め同胞全体が、これが明白な差別であり、何故裁判をしているのかという認識を共有し、しっかりと理解したうえで一人一人が自発的にアクションをしていかなければならないと思います。

最後に、支援者に対するメッセージをお願いします。

いつも支援してくれる方々には本当にありがたく思います。また、常に裁判支援の現場に顔を出すことが難しい方々も、一つでも何か裁判支援の現場に顔をどんどん出してもらえたらと思います。

ネットワーク愛知　第一回総会が行われました

朝鮮高校に差別なく無償化適用を求めるネットワーク愛知（以下、ネットワーク愛知）の第一回総会が、2014年5月13日（火）19時からウインクあいち（11階会議場）にて行われました。ネットワーク愛知が2010年5月20日に発足して4年が経過するなかで、朝鮮高校の無償化適用をめぐっては、愛知朝高の生徒・卒業生10名が原告となって国家賠償請求裁判をおこすに至り、今後、腰をすえた支援が必要であり、ネットワーク愛知としても体裁をきちんと整えていく必要があるという問題意識から、はじめて総会を開くことにいたしました。

総会には100名近い会員、支援者が出席してくださいました。そして、会則（これまでのものを一部改正）、活動報告、活動方針、決算報告、予算案、2014年度事務局体制などを提案し、承認を得ました。（決算・予算については資料参照）

また、20時からは『ルポ・京都朝鮮学校襲撃事件』（岩波書店）著者の中村一成さんをお招きし、記念講演をしていただきました。京都の事件、裁判を振り返る中で、中村さんは「朝鮮人としての自尊感情を育みたいと願って子どもを朝鮮学校に送った親たちの気持ちは、この襲撃事件によって最悪の形で踏みにじられた。親たちは苦悩しながら裁判を闘い、ヘイトスピーチは差別だという判決を勝ち取った。無償化排除も構造的には同じものである」と語りかけました。

無償化裁判、あらためて、正義は朝鮮学校やそれを支援する私たちの側にあると確認し、今後、長くなるだろう裁判、じっくり丁寧に支援していかねばと一同、思いをあらたにいたしました。

2013年度決算報告・2014年度予算案

■2013年度　決算報告（2013年1月1日～12月31日）

【収入の部】	
前年度繰越金	160,444
会費　郵便・銀行振替口座　104件	1,300,960
現金　30件	883,000
カンパ　60件	551,505
参加費　（集会資料代など）	144,500
雑収入　（グッズ売上など）	906,620
合　計	3,947,029
【支出の部】	
裁判関係費　（訴訟費用・訴状コピー代・原告面会交通費など）	369,362
会報発行費　（トトリ・トトリ瓦版など）	527,273
通信費　（会報発送費など）	109,553
印刷費　（資料・チラシ等・印刷・コピー代など）	48,340
事業費　（講師謝礼・交通費・グッズ製作費など）	146,160
会場費　（決起集会・裁判報告集会など）	80,700
活動・宣伝費　（全国集会・弁護団会議交通費など）	85,420
事務費　（事務用品・紙代など）	16,329
手数料　（振替手数料）	3,630
合　計	1,386,767
【繰越金】	2,560,262

■2014年度　予算案（2014年1月1日～12月31日）

【収入の部】	
前年度繰越金	2,560,262
会費	1,000,000
カンパ	1,000,000
行事参加費	100,000
雑収入　（グッズ販売・チャリティなど）	1,000,000
合　計	5,660,262
【支出の部】	
弁護団活動経費	
事務経費　（資料・書状等コピー代@20,000×12か月）	240,000
活動関係費　（資料購入・裁判参加費・原告との活動費など）	500,000
活動実費および予備費　（弁護団会議交通費など）	500,000
小　計	1,240,000
原告団・ネットワーク愛知活動経費	
会報・傍聴チラシ・各種資料発行費	500,000
通信費　（会員への各種資料発送費など）	300,000
印刷費　（資料・各種案内・関係資料等印刷コピー代）	100,000
事業費　（講師謝礼交通費・グッズ製作代など）	200,000
会場費　（報告集会・各種行事など）	150,000
原告活動費　（裁判参加交通費など）	500,000
H.P関係費	50,000
事務局事務費（事務用品・紙代など）	200,000
振込手数料	10,000
小　計	2,010,000
次年度繰越金	2,410,262
合　計	5,660,262

ととり通信 11 号

2014年8月31日　発行
発　　行：朝鮮高校無償化ネット愛知
URL http://mushouka.aichi.jp/
e-mail：musyoukanet.aichi@gmail.com
FAX：0562-97-1829
編　　集：USM ～웃음～ウリハッキョサポートネットメンバーズ
デザイン：(株) アトリエ・ハル

裁判応援グッズ第二弾を作成しました!

2013年12月19日に愛知朝高の卒業生と生徒5名が第二次で提訴をいたしました。
これで,愛知は10名の原告で<無償化裁判>を闘うことになります。
ネットワーク愛知では,全面的に原告を支え,この裁判に関わっていこうと決意を新たにしています。

《原告を応援するために,ネットワーク愛知では裁判応援グッズ第二弾を作成しました。》

2013年3月に売り出したファイル3点セットに続き,
エコバッグと缶バッジ3種です。
ファイルで使用したデザインで作成しました。
エコバッグは,太陽をデザインしたものです。
デザイナーがこめた思いは
「太陽はお前たち(ウリハッキョ)の味方だよ」です。
缶バッジは,ネットワーク愛知のロゴ,朝鮮学校の舞踊部の女生徒,愛知朝鮮中高級学校の校舎の一部をデザインしてもらいました。

【販売価格】

■ エコバッグ	1500円	
■ 缶バッジ	1個	200円
	3個セット	500円

みなさまのご協力をお願いいたします。

購入希望の方, または, 集会などの折に販売にご協力いただけるようでしたら,
下記までご一報ください。

【連絡先】 愛知県豊明市栄町南館 55
愛知朝鮮学園内　朝鮮高校無償化ネット愛知　金伸治

Tel : 0562-97-1815
Fax : 0562-97-1829
Mail : musyoukanet.aichi@gmail.com